



発行：チボリ国際里親の会事務局編集部
事務局：〒110-0016 東京都台東区台東1丁目25-16 大熊ビル205
TEL.03-3835-1545 FAX.03-3835-1546 IPTEL.050-1371-1541
URL：http://www.jofpa.org E-mail：jofpa-tokyo@jofpa.org

チボリ国際里親の会会報 2010.11.25

Japan Overseas Foster Parent Association

発行年4回（2月、5月、8月、11月）

- 1～2…会の30年間の“あゆみ”
- 2……コミュニティだより
ヘルス・プログラム報告/今年度の卒業研修旅行
- 3……理事会報告
むさしの教会バザーに参加して
- 4……日本体験
“出会いから芽生えた大切なこと”
- 5……会員のひろば
- 6……事務局からのおたより



学校に行けないフィリピンの少数民族(チボリ族)の子どもたちを精神里親制度で支援しています

会の30年間の“あゆみ”

発足から2001年まで

- 1980年 1月 『チボリ国際里親の会』発足（提案は初代会長藤原輝男氏。小学校4校から始まる）
- 1980年 12月 チボリニュース第1号発行
- 1981年 7月 初めてのチボリ現地訪問
- 1982年 12月 クリスマスプレゼントを始める
- 1988年 6月 小学校25校、高校2校、大学1校
- 1990年 4月 造植林事業3カ年契約を結ぶ（14地区26万本）
- 1992年 1月 従来の教育支援に『環境整備援助』を加えた2本柱とする
- 1992年 5月 SCMSI学校法人代表交代（マリア・ガンダムさん就任）
- 1992年 6月 伝統工芸育成振興事業開始（ティナラクハウス建設・織機6台購入など）
- 1993年 8月 タルベック地区簡易水道完成させる
- 1993年 12月 菅沼障害児基金が発足する
- 1994年 7月 JOFPA/SCMSI 10カ年契約締結

初代会長の藤原輝男先生が、チボリ族の里親制度による教育支援を呼びかけられたことがきっかけになり「会」が設立されました。以来、多くの会員の皆さまの温かい心と、お力添えによって、当会は現地の願いに応えつつ地道な活動を継続させてきました。ここで、その30年間のあゆみを振り返ってみたいと思います。（事業の記述は一部を抜粋しています）

- 1995年 8月 事務局が山口県宇部市から東京都国立市へ移転する
- 1997年 4月 農村改善支援事業としてアバカの植栽・各種果樹植栽を開始する
- 1997年 8月 女性の収入向上の支援として縫製技術を指導する（ミシン15台寄付）
- 1998年 1月 チボリニュース隔月発行になる
- 1998年 4月 青少年技術研修事業として若年母親を対象にした木工・竹細工・縫製など生業技術習得の支援を始める
- 1998年 4月 学校植林事業（マホガニー・ナラ他、土壌流出防止用フラミンジャ及び野菜果樹栽培）による学校自主財源確保の支援を始める
- 1998年 4月 貧困家庭支援事業（豚・鶏・水牛・農具貸付など）の支援を開始する
- 1998年 6月 ムドン校舎の立替が完成する
- 1998年 6月 ニアン地区の簡易水道が完成する
- 1998年 7月 レムエヘク地区に図書館を新築する
- 1998年 7月 レムエヘク地区の家庭科実習棟が完成する
- 1999年 1月 菅沼基金の対象を診療全般と拡大させる
- 1999年 4月 卒業研修旅行を始める
- 1999年 4月 会のホームページを開設する
- 2000年 6月 事務局を東京都台東区へ移転する
- 2001年 2月 デコロン地区の簡易水道が完成する



楽しい給食(屋外食堂にて)

2002年～現在

- 2002年 1月 大学奨学金制度を発足させる
2003年 1月 SCMSI会長マリア・ガンダム訪日
2003年 1月 フィリピンの日本大使館がSCMSIを表彰。図書館と書籍が寄贈される表彰金2百万ペソ（約2百万円）
2004年 6月 3カ年支援契約が締結される
2006年 6月 初代会長藤原さんが逝去される
2006年 8月 チボリニュースの発行を3カ月毎になる
2007年 6月 3カ年支援契約が締結される
2008年 2月 デコロンハイスクール敷地内に工作棟が完成される
2008年 2月 フィリピン大使館より感謝状が授与される
2009年 4月 会の「30周年事業企画」に関する会員の意見を集める（全国11拠点）
2010年 5月 チボリ国際里親の会の発足30周年事業を実施する
チボリから3名の代表を招へいし、当会とSCMSIとの今後に向けた合同会議を開催した後に、各地で交流会を開催する
交流会会場：大阪・山口・東京
2010年 6月 3カ年契約が締結される

【付記事項】

SCMSIは1963年に設立され、レムエへ小学校3教室で授業が開始されました。その後1979年にハイスクールを開校し、少数民族全体の地位向上や生活改善に多大なる役目を担っています。

コミュニティだより

サンタ・クルス・ミッション ヘルス・プログラム報告

SPCヘルスコーディネーター Sr. Veronica Alvarez

このプログラムでは、菅沼基金の支援をいただいて、学校とコミュニティの人々の健康増進のための事業を行っています。2009年度は次のような活動をしました。

- ★ミッションの診療所にボランティアの医師が駐在し、生徒・地域住民の外来の患者1,129人を診療しました。主な疾患は、上気道感染、胃炎、アトピー性皮膚炎、気管支炎そして肺炎でした。
- ★レイクセブには歯科医1名しかいません。診療所では通常の歯科治療はできませんが、患者には適切な医療機関を紹介し診察をしてもらいました。
- ★ミッションの診療所では十分な治療ができない17人の患者に、適切な病院を紹介しました。
- ★SCMSIのそれぞれの学校の生徒と先生方の健康に目を配り、必要な場合には薬を出し、また診療所に送ります。各学校では保健婦による身体検査を行いました。遠隔地にある学校の生徒はバランガイ診療所で行いました。

このプログラムは、コミュニティの住民の健康維持に大切な役割を果たしています。診療所や学校の経費、薬代、ボランティア医師の経費の補助、また貧しい住民の医療費・交通費補助などの大きな働きをしています。菅沼基金に心より感謝しています。

今年度の卒業研修旅行

SCMSI代表 マリア・L.ガンダム

今年も、4月20日と21日にレイクセブからバスで約2時間かかるジェネラル・サントス市への研修旅行を行いました。小学校、ハイスクール、カレッジ生25名と教師を含む引率者の総勢35名が参加。

参加者からの感想文

アルフレッド・デラ・クルーズ
デコロン・ハイスクール生



夢見ていた研修旅行に参加できて、とても素晴らしい思い出となりました。

私は、コロナダルの劇場で映画を見るグループには、参加しませんでした。大企業のドール・フィリピン社を訪ね、高度な技術の知識を得るための体験をしました。いつかこの会社で働くことを夢みて、もっとしっかりと勉強するように努力したいと思います。

その後、サランガニ州のダディアンガス大学の

訪問した場所と体験したこと

ショッピングモールで映画鑑賞
ノートルダム大学を訪問
海水浴
有名企業ドール・フィリピン見学
サランガニ州議事堂見学

ノートルダム校を訪ね、その建物の構造に驚き、初めてその研究室で哺乳類のジュゴンを見ました。

サランガニ州のグマサ・グランでは自然を取り巻く良い環境があって、白砂の海岸があります。そこでは、先生たち、スタッフ、学生たちがお互いにきずなを強め、また楽しい時も過ごしました。それは私には初めての体験でした。

このような矢野基金による卒業研修旅行はこれからの学業の意欲をさらに深めるための良いご褒美になりました。

理事会報告 2010年(H22)11月9日火曜日

会長、副会長、理事3名と事務局が出席のもと理事会が開催されました。最初に、事務局から今期10月末現在の収支及び会員状況について下記の報告がありました。

*会費収入計は688万円

*新入会員口数：8口、退会口数：18口

*正会員口数：651口、賛助会員口数106口

次に、以下の項目について協議されました。

湖(レイクセブ)で
魚つりをする
チボリのこども



1. JOFPA/SCMSI合同会議を受けて

JOFPAのこれまでの歩みにおいて会員減少の傾向があり、本会の経済事情が逼迫してきました。

現地の教育基盤に関しては、残された問題もまだありますが、30年間に亘る支援で整いつつあります。2013年(H25)5月末で、この3カ年契約をここで一旦終了させることとなりました。

しかし、その3年後以降の新たな支援のあり方に関しては、会員の皆さまと一緒に考えながら模索し、検討を重ねていくこととなりました。

現地SCMSIへは、3カ年契約の終了と年度毎の送金額の減額(年100万円減)について、事前に予告していますが、今回の理事会の決議事項をもって再度これを伝えることとなりました。

また、上記の状況によって、現地の経営(人

件費)が困難をきたすことになるという事態を予想し、出来るだけ小学校を自治体に移管し、公立化を進める努力をしてもらう旨をも現地へ伝えることとなりました。

なお、契約切れになるまでには2年半の期間がありますので、今後も理事会で検討を重ねていくこととなりました。

2. 次年度の経済的支援の覚書

次年度は教育支援費として年間864万円、給食支援費として96万円を送金することで、覚書が作成されました。

3. 事務局スタッフ

前任者の退職に伴い、後任として会員の前田佳代子さん(神奈川県)と会員の向山由里子さん(東京都)が、事務局スタッフとして承認されました。今後も今までどおり3名のスタッフ(関根・前田・向山)が1日1人体制で事務局に交替で出ることとなります。

次期理事会は、2011年(H23)2月2日(水)12時半より開催される予定です。

むさしの教会バザーに参加して

馬場悦子(東京都)

11月3日(祝)事務局の友人から声がかかり、バザーのお手伝いという初めての貴重な体験をいたしました。当日は文化の日らしき好日となり、参加者の出足も快調でした。



むさしの教会バザー

会場のセッティングも心のこもった手作りです。皆で楽しみましょう！

あの笑顔、この笑顔が重なり合って、温かく気持ちいい交流

の場となりました。販売品は勿論、食堂のランチも、それにチャペル・コンサートも、みなそれぞれに誠意の味と思いが感じられ、教会全体が楽しみと喜びとでふくれあがったようでした。

教会員の方の飛び込みヘルプもあり、献身的なご協力には胸打たれました。心残りなのが、教会の主催であり、この「チボリ国際里親の会」の趣旨を十分に皆さまにお伝えできなかったことです。大したお手伝いもしていませんが、イベントに参加し、参加者のお気持ちを受け取り、人との繋がりの中に入れてたことをありがたく思います。参加させて頂いたことに感謝申し上げます。



日本体験

一日出づる国にてー



チボリ族の家族風景

SCMSI代表 マリア・L.ガンダム

日本滞在中は皆さんから温かいもてなしを受けまして心より感謝申し上げます。皆さんのおかげで今回はより一層感動的な訪問となりました。日本では毎日が新しいできごとと感動の連続で、同行した2人は優れた日本の姿を見聞して非常に驚嘆していました。

大阪で開かれたJOFPA理事会との合同会議は成果を収め実りあるものでした。SCMSI側の困難や問題を伝える良い機会になるとともに、今後のJOFPAとの関係を強化すべきSCMSI側の弱点を見出しました。

会員との交流会での意見交換は非常に重要なものとなりました。また、山口県の華稜高校での文化交流会は印象深く心に残りました。

日本での一瞬一瞬は私たちにとって生涯忘れ得ぬ経験となりました。いつの日も大切に心に抱えています。ここに改めてお礼申し上げます。

“出会いから芽生えた大切なこと” チボリ族・華稜高校教育交流会

JRC・ボランティア担当教師 近間弘子

昨年秋、南会長よりチボリ族と華稜高校の教育交流会開催の提案をいただきました。その責務の大きさに一瞬の躊躇はありました。平成11年より生徒の発案で始まったチボリ募金活動も10年という節目で、今までの活動を総括し今後の方向を展望する良い機会であると考え、すぐに生徒会のメンバーに打診しました。『全ての生徒の手で!』を軸に、10月には第1回目の打ち合せ会、情報が限られた中、何もかも手探りの準備でしたが、当日はチボリ募金の発案者の一人赤松由紀さんも来校し、大変意義深い充実した交流会を実施することができました。

ガンダムさん、アバンさん、パスターさん、年代はちがいますが、温かく凛とした姿が印象的でした。

「伝統・文化を大切に！」

高校2年生 大神春香

自分たちが毎月少しずつ募金しているお金に対して、とても感謝しても

らえて心から嬉しかったです。一人ひとりの募金額は非常に少ないものですが「学校」という大きい単位で集めればチボリ族の皆さんのお役に立つことができるので、毎月欠かさずやろうと思いました。また、今までは、募金をするだけで「チボリ族はどんな民族なのだろう」「チボリ族の人たちは募金をしている私たちに対してどのように思っているのだろう」と多くの疑問をもっていました。



チボリの3人を迎えて記念写真

「民族の役に立ちたい！」人間として何を大切にすべきかを深く考えさせられました。この出会いを単に良き思い出とするだけでなく、一人ひとりが次のステップにどう繋げていくか様々な形で模索し続けていくことを心から願っています。このような貴重な体験の機会を与えて下さったチボリ国際里親の会の皆さま方に深く感謝申し上げます。

今回の交流会では、チボリ族の方々の生の声が聞けて、しかも私が疑問に思っていたことも映像や文章で教えてくださったので良かったです。

この交流会を通して、日本の子どもたちがいかに恵まれた環境で勉強させてもらっているかということも改めて感じました。今の自分の環境に感謝して、何事も「無駄」にすることのないよう頑張りたいです。

チボリ族の方々は自国の文化をととても誇りに思っていました。ダンスや楽器などを紹介してもらい、とても印象的でした。私も自国の文化にもっと誇りがもてるようになりたいです。

新聞で折った「カブト」をかぶって赤松由紀さん(右)とジョッサニ・パスターさん



会員のひろば

Q 私の年会費（24,000円）が、現地にどのように反映されるのか教えてください。

A 会費全額がSCMSI学校法人に送金されるわけではありません。JOFFPAの運営費を除き契約に従った額が現地へ送金されて、子どもの授業料、職員の給与、教材、給食費等の必要な経費にあてられます。

竹下垂矢（大阪府）

使用済み切手を少しですが送ります。会社で集めているため切手の周りの部分に差がありますがお許しく下さい。

また、近年はメールが多く切手を貼った封書も減りましたが、これからも少しずつですが集めていきます。お役に立てれば幸いです。

安井恵美子（愛知県）

チボリニュースをいつも楽しみに読ませていただいております。誌上で知った人のお顔の写真や、お名前に出会えるのもうれしく楽しみです。

緒方久美子（福岡県）

31年勤めた職場を今年退職しました。定年までまだ随分期間はありましたが…。仕事を始めた当初から会員であることに、ちょっぴり誇りを持っています。故藤原輝男先生と訪れたチボリの里のことが懐かしく思い出されます。

寺内幸子（福島県）

いつもお世話様です。早いもので里子は小学校6年生になりました。無事卒業し、ハイスクールに進学できるよう祈っています。

青木のり（静岡県）

1人でも多くの子どもたちが教育を受け、チボリ社会が豊かになりますように。



舟のような民族楽器が出ているけど何が始まるのかな？

Q 会員の中で、『里子支援と全体支援』をされている方の違いについて教えてください。

A 「全体支援」とは、特定の里子を持たずに、SCMSIや会の運営をご支援いただきます。「里子支援」とは、チボリ族他、山岳民族の未就学児の特定の里子をご紹介します、その子どもが学校を卒業するまで支援をしていただきます。しかし、これはあくまでも未就学児の児童が現地で教育を受けられる里親制度で、お金が直接里子に手渡されるものではありません。

渡辺幸子（静岡県）

チボリへの支援活動が充実して、長続きしますようにお祈りいたします。私も健康の許す限り、小さな協力しか出来ませんがさせていただきたいと思えます。

桂聡美（大阪府）

里子のお便りいつもうれしく拝読しています。クリスマス休暇をご家族と過ごし久々に両親や兄弟に会えた喜び、大学での勉強やプレッシャーの大きさなどが書かれていて、まじめで誠実な人柄がにじみ出ています。ぜひいつかお会いしたいと思っております。

内川明彦（長崎県）

会費の件、切手の件、即対応くださいまして、ありがとうございます。いつも思います事務局の皆さま大変お世話様です。私も続けていきます。

山崎真理子（兵庫県）

一度もチボリに行ったことはありませんが、写真を見て想像しながら地道に協力を続けさせていただければと思っています。

三井摂子（東京都）

チボリの里への訪問が出来る日が、一日でも早く来るよう祈るばかりです。

溝口道代（茨城県）

里子のバイオデーターが届きました。ありがとうございます。年々子どもたちが大きくなり、しっかりしてくるようで頼もしいです。この子どもたちの未来が明るいものになればいいですね。

岡山真一（熊本県）

里子が小学校を卒業して就職したとの知らせに、経済的な理由で進学できない人たちがいることを改めて実感するとともに、フィリピンの貧困が改善していくことを祈るだけです。

事務局からのおたより

■どうぞご利用ください。

チボリから里子のバイオデータとクリスマスカードが届いていますので、里親の方に順次お送りしています。一部届いていない里子もあり、現地へ問い合わせしているところですので、少しお待ちください。

里親から里子へ送るカードの書き方例と宛名ラベルも同封しました。お使いください。



■バザーに参加します。

東京YWCA - Christmas for Peace 2010

日時：12月4日(土) 13:00~18:00

会場：東京YWCA会館

JR御茶ノ水より徒歩5分

**お手伝いを
お願いします**

会場でお手伝いしていただけるボランティアを募集しています。
詳細：03-3835-1545まで

■どなたでしょうか？『ありがとうございました』

今年5月から、北九州方面にお住まいの方から「名前は架空です。困っている方々のためにお使ください」と、ご寄付が4回届きました。お礼状の出しようありません。紙面をもって感謝をお伝えさせていただきます。



■訂正をお願いします。

前号272号の4頁の中で大阪会場の実行委員さんのお名前を間違えて掲載しました。訂正をお願い致します。

誤：井上八千代 → 正：井上千代子

■新しいスタッフです。

前田佳代子さん(神奈川県)と向山由里子さん(東京都)が新しく仲間入りしました。

今後、関根・前田・向山の3名が交替で事務局に出ています。

よろしくお願いいたします。

■年末年始はお休みします。

12月28日(火)から

1月5日(水)まで休み

JOFPAへのご支援・ご協力ありがとうございます 敬称略(2010年7月21日~11月10日)

■新入会員 (< >内はご紹介者又は入会のきっかけ)

東京都・関口孝子<大須賀育代>、東京都・馬場悦子<関根千恵子>

■ご寄付者(ご寄付・随時ご協力の賛助費についてお名前を紹介させていただきます)

秋本光代 石田節子 犬島浩一 太田れい子 金丸登美 加納行 後藤良子 坂詰美代子 佐藤静子 関根幸重 関根栄 関根千恵子 高井和子 土橋淑子 永見孝二 永見満子 浪治三重子 夏川範子 原口治子 馬場悦子 反納新一 平賀貴久子 平山妙子 福田昌佳 府中真弓 福寿恵美 増田憲治・文江 増山富美子 松本満江 向山由里子 山田茅畝子 山本芳枝 山本尚子 吉永洋子 北九州方面の匿名の方

■切手(未使用、使用済含む) その他

相良由佳里 秋本光代 荒木のり 石川繁 井上千代子 岩井佐多子 伊沢美佐子 内川明彦 大須賀育代 大友孝子 大橋路代 大成せつ子 小林理咲 岡田満喜子 岡山真一 小国養護学校 角谷孝子 加藤裕子 桂典子 北浦千夏 九島麗子 熊谷悦子 小玉なほみ 佐々木月野 斉藤真緒 坂詰美代子 佐藤謙一 鈴木静代 菅沼いずみ 須田晃 芹田美津子 平由美 竹下亜矢 田村畝子 富田守 土田タマ 中崎みどり 長澤ヤス子 樋岡トキ子 能登よしの 西川雄子 曳地和美 平松昭子 藤倉寿美子 丸山佳代子 村木正次 森茂子 森崎純子 安井恵美子 安井博子 安田 山崎静子 山田茅畝子 柳谷ヤエ 吉澤頼子

■ボランティア(会報、バザー、翻訳、その他)

相田陽子 赤木めぐみ 安藤美知子 大須賀三歡 恩田和美 岡澤麻里 桑名信行 佐伯三郎 高井みどり 武田とよ子 富江崇 馬場悦子 増田憲治 溝口道代 渡辺洋子

■編集後記

今号は、本会の30年の“あゆみ”を特集しました。皆さまの教育支援という善意の歴史です。この節目にこの会の今後を模索して参りましょう。ご意見をお待ちしています。(大須賀)

お名前掲載を希望されない方は、お手数ですがその旨事務局までご連絡をお願いいたします。

サラマツ!
チボリ語で
ありがとうの意